

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：12501

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K12237

研究課題名（和文）アルテミジア・ジェンティレスキがナポリ派に与えた影響の再評価

研究課題名（英文）Re-evaluating the influence of Artemisia Gentileschi on Neapolitan painting

研究代表者

川合 真木子（Kawai, Makiko）

千葉大学・大学院人文科学研究院・助教

研究者番号：20801294

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：アルテミジア・ジェンティレスキ（1593～1654以降）は、17世紀イタリアを代表する女性画家であり、1630年代から1650年代にかけてナポリを活動拠点としていた。本研究は、アルテミジア・ジェンティレスキのナポリにおける活動に着目し、彼女の同時代的評価や次世代への影響について明らかにしようとするものである。その際、近年のコレクショニズム研究の成果を反映し、ナポリの芸術家たちの伝記を検討することを通して、アルテミジア・ジェンティレスキの絵画の再評価を試みた。その結果、南イタリアのコレクションにおけるアルテミジア作品の受容状況や後世における評価について、ある程度まで明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、従来カラヴァッジェスキ研究の観点からは看過されがちであったアルテミジア・ジェンティレスキのナポリ時代を扱い、彼女の同時代的な評価を検討した点で美術史的に意義をもつ。研究を進める過程で邦訳した画家本人の書簡や18世紀の伝記は、これまで日本語でアクセスすることが困難であったが、リポジトリで広く公開することにより、関連分野の将来的発展に貢献したといえる。さらに、期間中には同画家に関する国内初のモノグラフを刊行することができた。なお、近世の女性芸術家の活動を扱い、同時代的評価や後世における受容を考察した本研究は、美術史の範囲にとどまらず、ジェンダーの観点からも現代に通じる価値を有している。

研究成果の概要（英文）：Artemisia Gentileschi (1593-after1654) was one of the most famous female painters in seventeenth century Italy; she was active in Naples from the 1630s to 1650s. The aim of this research is to clarify her reputation in seventeenth century Italy and her influence on the next generation in Naples. Based on some previous research on the artistic collections in south Italy and biographies of Neapolitan artists, I tried to revalue Artemisia's paintings. Thus, I could shed light, to a certain extent, on the high recognition of her works among the collectors and her fame among younger generations.

研究分野：美術史

キーワード：アルテミジア・ジェンティレスキ ナポリ 女性画家 バロック ベルナルド・カヴァッリーノ パオロ・フィノーリア ルイーザ・カボマツツァ ベルナルド・デ・ドミニチ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

アルテミジア・ジェンティレスキ (Artemisia Gentileschi / 1593-1654 以降) は、17 世紀イタリアの女性画家で、20 世紀の初頭にカラヴァッジョの追隨者、いわゆるカラヴァッジェスキのひとりとして位置付けられた (Longhi 1916)。さらに、数少ない女性画家として 1970 年代以降はフェミニズムの観点から注目をあつめ、初のモノグラフが出版された (Garrard 1989)。現在欧米では、バロック期のイタリアを代表する女性画家として知られている。

カラヴァッジョの友人でもあった父、オラツィオ・ジェンティレスキの指導の下、ローマで修業したアルテミジアは、同地で流行したドラマティックな明暗表現、いわゆるカラヴァッジズムを取り入れて画風を形成した。1630 年以降、彼女は活動拠点をナポリへ移した。

ナポリの画派については、ジョヴァンニ・プレヴィターリ (Previtali 1971)、ラッファエーレ・カウザ (Causa 1972)、ニコラ・スピノザ (Spinosa 2010) らによって研究の蓄積が行われている。特に 17 世紀に限って言えば、同地の画派は、カラヴァッジェスキ研究の文脈から解釈されることが多い。カラヴァッジョ自身のナポリ滞在も手伝って、同地にはローマに次いでカラヴァッジズムが根付き、長期間にわたって保持されたと見られている (Nicolson 1990)。一方、ローマを経由してもたらされたボローニャ派古典主義は、カラヴァッジズムと双璧をなす絵画潮流として、ナポリにおける盛期バロックの芸術を支えていく。

翻って、アルテミジアの画業においては、カラヴァッジズムへの強い反応を示した前半生の画業に対し、ナポリにおける後半生の画業に関しては、従来あまり注目されることがなく、近年ようやく研究が進みつつある (Marshal 2005, Locker 2015)。アルテミジアの後半生に関する研究が発展途上であるにもかかわらず、カラヴァッジズムに対する強い反応を見せた前半生の印象から、彼女は伝統的にナポリにおけるカラヴァッジズムの発展に貢献したと説明されることが多かった (Wittkower 1958)。しかし、ナポリの画派の展開と、1650 年代までの比較的長期にわたるアルテミジアの活動に鑑みて、アルテミジアがナポリ派に果たした貢献は、決してカラヴァッジズムの発展のみに限定されるとは思われない。

アルテミジアの個人様式の展開は、ナポリにおける古典主義的な絵画潮流の台頭とも重なっている。17 世紀当時、バロック美術の中心地であるローマと、スペイン支配下の大都市ナポリの間には盛んな人物往来があり、こうした交流は当時の絵画潮流を理解する上で重要である。ローマとナポリの双方をその生涯のうちに経験したアルテミジアが、こうした地域間の交流を促しながら、ナポリの画派の発展に関わり、また続く世代に影響を残した可能性を考慮するべきである。本研究は、カラヴァッジズムの伝達者としての側面に限定せず、同時代のナポリの画家との関わりや、彼女の作品の同時代における受容の観点から、アルテミジアがナポリ絵画の発展に与えた影響を再評価しようとするものである。

2. 研究の目的

本研究では、アルテミジア・ジェンティレスキのナポリにおける活動を取り上げ、同時代の画家の作品との相互比較、書簡やコレクション目録、伝記の記述等の検討を通して、彼女の同時代的評価を確認し、同地の画派に対して与えた影響を考察する。

アルテミジアはドラマティックな明暗表現を得意とし、現在ではナポリのカラヴァッジズムを発展させた画家のひとりとして知られるが、近世の言説においては、むしろボローニャ派の影響を受けた優美な画風が評価されていた (De Dominicis 1742-1745)。そこで本研究では、カラヴァッジズムに限定せず、彼女の個人様式の発展に着目し、ナポリ絵画における彼女の影響を明らかにすることを目指す。その際、ナポリにおけるアルテミジアの個人様式の発展と周囲の画家との影響関係を整理し、ナポリの画派において、アルテミジアの芸術がどのように受容されたかを検証する。

3. 研究の方法

本研究の方法は、(1) 作品分析 (画像・表現の相似に関するもの) と (2) 史料調査に大別できる。特に後者は a. 画家本人のエゴ・ドキュメントの調査、b. コレクション目録の調査、c. 伝記記述の調査を並行して行った。

(1) 作品分析

まず、先行研究および文献調査によって、資料となる画像を収集した。つぎに、アルテミジアの作品に対して同時代の他の画家の作品を比較対象とし、様式比較を通して影響関係を分析した。比較対象としたのは主に以下の 3 つの分類である。

マッシモ・スタンツィオーネを中心としたアルテミジアと同世代のナポリの画家たち

ベルナルド・カヴァッリーノなど、やや若い世代のナポリの画家たち

パオロ・フィノーリアなどナポリ以外の南イタリアで活動した同時代の画家たち。

特にナポリの画派におけるアルテミジアの影響について、のスタンツィオーネのサークルに属する若い画家たち (すなわち) との関係を中心に検証した。アルテミジアが共同制作を行ったと目されるベルナルド・カヴァッリーノやオノフリオ・パルンボに対する彼女の影響は、そ

それぞれの画家に関する個別研究で一定程度考察されている（Percy 1984, De Vito 2005）。この影響関係は、アルテミジアがナポリで多く描いた女性裸体の表現に顕著に見られるため、作品比較を通して改めて検証した。また、の比較対象を用いることにより、同世代の画家に対するアルテミジアの影響について、ナポリにとどまらず、周辺地域（南伊）の美術との関係も含めて考察した。以上の分析を通し、アルテミジアがナポリにおいて生みだした画風が、同地の画派の発展に与えた影響を、世代的あるいは地域的の広がりの中で再検討することができた。

（2）史料調査

a. 画家本人のエゴ・ドキュメントの調査

アルテミジア・ジェンティレスキの書簡はその多くがソリナスらによって集成され、刊行されている（Solinas 2011）。独特の綴りと口語に近い彼女の書簡は、決して読み解くのに容易ではなく、各国語の翻訳者によっても解釈の分かれる部分が頻出する。

今回の研究では、特に1630年代から40年代初頭にかけての数通の書簡の読み解きと、1.の作品分析を結び付け、彼女のナポリにおける活動のより具体的な再構成を試みた。

b. コレクション目録の調査

新型コロナウイルスによる現地調査の縮小により、新たな未刊行史料の利用が難しかったため、主にアクアヴィーヴァ・ダラゴーナ・コレクションの目録の書き起こし（Centro Conversanese Ricerche di Storia ed Arte 1983）や、Getty Provenance Research 等を用いたものが主となった。実際の現存絵画作品と突き合わせながら、ナポリ周辺の南イタリア（主にプーリア地方）におけるアルテミジア作品の同時代的な位置づけや、評価の読み取りを試みた。

c. 伝記記述の調査

ナポリの芸術家に関する基礎資料である『ナポリ芸術家伝』（De Dominicis 1742-1745）の翻訳を行った。特に、アルテミジアよりやや若い世代に当たるベルナルド・カヴァッリーノの伝記を中心に作業を行った。アルテミジアが後のナポリの人々からどのように評価されていたのかを、記述を読み解きながら、実際の作品比較ともあわせて裏付けていった。

以上のように、作品の画像に対する分析と並行して史料の検証を行い、アルテミジア・ジェンティレスキと他の同時代の画家たちとの影響関係の裏付けをとっていった。

4. 研究成果

以上の目的・方法に基づいて研究を行った結果、以下のような成果を得ることができた。

（1）アルテミジア・ジェンティレスキの書簡から見た作品制作の考察

数通の書簡の翻訳を通して、画家の晩年の動向の解明を進め、この時代の制作活動に対する理解を深めることができた。特に肖像制作（自画像を含む）に関する画家の言葉は、ナポリ宮廷周辺の詩人たちとの交流を示唆するものでもある。アルテミジアのナポリ時代の活動、つまり画業後期は、マーシャルやロッカーなどの研究（Marshall 2005, Locker 2015）によって国際的な関心を喚起したものの、その研究は現在も発展途上にある。従って本成果は、こうした欧米の先行研究を補完し、かつ更新するものとして重要である。成果物は所属機関のリポジトリで公開されているほか、2023年刊行のモノグラフにも収録した。

（2）アクアヴィーヴァ・ダラゴーナ・コレクションと新発見作品についての考察

2015年に個人コレクション中に再発見されたアルテミジア・ジェンティレスキの《ローマの慈愛》は、ナポリ時代に描かれた作品の中でも貴重な作例である。本作はコンヴェルサーノ伯爵であったジャンジローラモ・アクアヴィーヴァ・ダラゴーナのコレクションに由来し、2018年に、プーリア州コンヴェルサーノで行われた展覧会で初公開された。この展覧会に際し、本作の図像の分析と、伯爵のコレクション目録（Centro Conversanese Ricerche di Storia ed Arte 1983）の再検討を行った。アルテミジアの画業後期におけるカラヴァッジズムの表出について考察すると共に、17世紀の南伊のコレクションにおけるアルテミジア作品の高い評価を確認した。この成果物は、論文として投稿すると共に、2023年刊行のモノグラフに収録した。また、現地調査の成果でもある展覧会評を所属機関のリポジトリ上に欧文で公開した。

（3）ベルナルド・デ・ドミニチの『ナポリ芸術家伝』の翻訳・刊行と後世の評価の考察

アルテミジアの共同制作者と言われるベルナルド・カヴァッリーノの伝記を翻訳し、刊行した。この作業を通じて、アルテミジア・ジェンティレスキの18世紀における高い評価を裏付けることができた。デ・ドミニチの伝記は基礎資料であるものの、翻訳されることは極めてまれであり、今後日本において当該分野の研究発展を促進するものといえる。

また、最終年度に翻訳を行った女性画家ルイーザ・カボマツァの伝記は、直接的にはアルテミジアの記述を含まないものの、女性画家に対する近世の記述として貴重なものであり、今後ナポリの芸術家の系譜において女性画家の位置づけを考えるうえで、新たな視座を提示しうる。翻訳成果はいずれも所属機関のリポジトリで公開済みである。

引用文献

- Causa 1972 : Causa, Raffaello. *La pittura del Seicento a Napoli dal naturalismo al barocco*. Napoli, 1972.
- Centro Conversanese Ricerche di Storia ed Arte 1983 : Centro Conversanese Ricerche di Storia ed Arte, *Inventario delli beni remasti nell'heredità del quondam eccellentissimo Signor Don Giovanni Geronimo Acquaviva d'Aragonia, Conte di Conversano*. Galatina, 1983.
- De Dominicis 1742-1745 : De Dominicis, Bernardo. *Vite de' pittori, scultori ed architetti napoletani*. Naples, 1742-1745.
- De Vito 2005 : De Vito, Giuseppe. "A Note on Artemisia Gentileschi and Her Collaborator Onofrio Palumbo." *The Burlington Magazine*, vol.147, no. 1232 (Nov., 2005), p.749.
- Garrard 1989 : Garrard, Mary D. *Artemisia Gentileschi: The Image of the Female Hero in Italian Baroque Art*. Princeton, 1989.
- Locker 2015 : Locker, Jesse. *Artemisia Gentileschi: The Language of Painting*. New Haven and London, 2015.
- Longhi 1916 : Longhi, Roberto. "I Gentileschi: padre e figlia." *L'arte*, vol. 19(1916), pp. 245-316.
- Marshall 2005 : Marshall, Christopher. "The Spirit of Caesar in This Soul of a Woman: Artemisia Gentileschi and the Will to Succeed, 1629-1654." *Melbourne Art Journal*, no. 8(2005), pp.5-27.
- Nicolson 1990 : Nicolson, Benedict. *Caravaggism in Europe*. 3 vols. 2nd ed., rev. Luisa Vertova. Turin, 1990.
- Percy 1984 : Percy, Ann, ed. *Bernardo Cavallino of Naples, 1616-1656*. Exh. cat., Fort Worth, Cleveland Museum of Art and Kimbell Art Museum. Cleveland, 1984.
- Previtali 1971 : Previtali, Giovanni. *La pittura del 500 a Napoli e nell'Italia meridionale*. Chiaravalle Centrale, 1971.
- Solinas 2011 : Solinas, Francesco, ed. *Lettere di Artemisia: Edizione critica e annotata con quarantatre documenti inediti*. Rome, 2011.
- Spinosa 2010 : Spinosa, Nicola. *Pittura del seicento a Napoli: da Caravaggio a Massimo Stanzione*. Naples, 2010.
- Wittkower 1958 : Wittkower, Rudolf. *Art and Architecture in Italy 1600-1750*. 6th ed. 3 vols. New Haven and London, 1999.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 川合 真木子	4. 巻 52
2. 論文標題 翻訳・解題：ベルナルド・デ・ドミニチ「画家、修道女ルイーザ・カボマツツア伝」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 千葉大学人文研究 = The Journal of the Humanities	6. 最初と最後の頁 155 ~ 173
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20776/S27582337-52-P155	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 川合 真木子	4. 巻 51
2. 論文標題 アルテミジア・ジェンティレスキの支援者獲得の試み：1630年代のフランチェスコ・デステ 1世宛て書簡の翻訳と解題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 千葉大学人文研究 = The Journal of the Humanities	6. 最初と最後の頁 161 ~ 176
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20776/s03862097-51-p161	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 川合真木子	4. 巻 18
2. 論文標題 ベルナルド・デ・ドミニチ「ベルナルド・カヴァッリーノ伝」（2）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Aspects of Problems in Western Art History	6. 最初と最後の頁 89-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 川合真木子	4. 巻 16
2. 論文標題 アルテミジア・ジェンティレスキ《ローマの慈愛》 図像源泉およびアクアヴィーヴァ・ダラゴーナ・コレクションにおける受容	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京藝術大学美術学部論叢	6. 最初と最後の頁 29-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川合真木子	4. 巻 17
2. 論文標題 展覧会評: Artemisia and the Count's Painters: The Collection of Giangirolamo II Acquaviva d' Aragona in Conversano	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Aspects of Problems in Western Art History	6. 最初と最後の頁 191-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川合真木子	4. 巻 17
2. 論文標題 原典資料翻訳: ベルナルド・デ・ドミニチ「ベルナルド・カヴァッリーノ伝」(1)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Aspects of Problems in Western Art History	6. 最初と最後の頁 143-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川合真木子	4. 巻 16
2. 論文標題 アルテミジア・ジェンティレスキと肖像画制作 カッシャーノ・ダル・ボッツォ宛ての書簡翻訳と解題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Aspects of Problems in Western Art History	6. 最初と最後の頁 83-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計2件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 川合真木子
2. 発表標題 アルテミジア・ジェンティレスキの自画像 17世紀における女性画家の自己演出戦略
3. 学会等名 ジェンダー史学会
4. 発表年 2019年~2020年

1. 発表者名 川合真木子
2. 発表標題 17世紀前半のナポリ絵画とバオロ・フィノーリアの制作活動
3. 学会等名 イタリア言語・文化研究会
4. 発表年 2018年～2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 川合 真木子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 474
3. 書名 アルテミジア・ジェンティレスキ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>東京藝術大学リポジトリ https://geidai.repo.nii.ac.jp/</p> <p>千葉大学学術成果リポジトリ https://opac.ll.chiba-u.jp/da/curator/?lang=0</p>

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------